

Hello,ejworks !

The
History
and
Philosophy





—Vision—

デジタル化する社会における格差を解消する

「会社はお客様のためにある」
「個人の成長が会社の成長」
「会社の成長で社会に貢献する」

目次

P3 デジタル社会への貢献とそのあゆみ

創業への想いインタビュー

P6 創業への想い

P7 創業理念について

P8 ISP事業の広がり

コラム：イージェーワークスという名前に込められた想いとは？

人と地域がつないだ、私たちの25年

P9 ISPブランド紹介

P10 大手百貨店グループとの取り組み

コラム：バーチャル花火大会「firework.jp」

これからのデジタル社会

P11 人としての価値とは

P12 スマートライフという新しい学びのカたち
会長より社員に向けてメッセージ

P13 会社概要

デジタル社会への貢献と そのあゆみ

イージェーワークスは、創業以来「デジタル社会に貢献しよう」という理念のもと、時代の変化とともに、デジタル技術を通じた解決策を提案し続けてきました。

2008
ー各ISPブランドJOINー

Momoたろうインターネット	U-Broad.jp
VC-Net	h555.net
牛若丸インターネットサービス	awaji-BB
アイネットコミュニケーションズ	kyoto-lnet
117net	SANYNET
Mnet	

2008
あなたと作る打ち上げ花火プロジェクト！バーチャル花火大会「Firework.jp」をリリース。

2015
ejひかり 提供開始

2016
ULTRA DRIVE 提供開始

2017
CITYFUJISAWA JOIN

2020
積み重ねたWEBサイト実績が評価され、公共分野への展開と対応エリアが拡大

20XX年
新たな技術で価値を広げ
ともに未来へ

NTTが「ひかりコラボレーションモデル」の提供を開始した2015年2月と同月に、当社は「ejひかり」をスタート。他の事業者にも先駆けてサービスを立ち上げたことで、いち早く市場に対応した取り組みとなりました🌟

2025
AIエージェント
事業に参入

2000
株式会社
イージェーワーク
スドットコム設立

ejnetを開始

2001
Webインテグレーション事業開始

2004
リムネット JOIN

2005
ALLES NET JOIN
四国インターネット JOIN

2006
顧客管理システム「MBOS
(Multi Brand Operation
System)」開発

infopPepper JOIN

2007
The FSI Networks JOIN
まねきねこインターネット JOIN

2009
法人向けISP事業の「ISAO接続サービス」の営業を承継。

2010
フレッシュワン
スマートブッキング
提供開始

2011
スマートインフォ
スポット提供開始

Wi-Fiアクセスポイントを利用してスマートフォンの位置を特定し

- 商業施設でのキャンペーン配信
- 大型施設での店内ナビゲーション
- 美術館での音声案内

を配信するマーケティングサービスで実際に横浜の施設に導入されていました！

新卒でWeb営業として担当した数多くの企業の中で、特に印象に残っているのが、とある団体さまのトップページに使用した手描きイラスト。キャラクターの世界観に合わせて描いたのですが、実はそのイラスト、今でもずっと使われ続けているんです🌟

2022



みなとみらい「横浜ゲート
タワー」へオフィス移転

地域活性化×NFT×アート「SHONAN NFTアートコンテスト」開催

2023
DRIVE JOIN

旧オフィス 新横浜アリーナタワー



当時は今と違って変わって赤色が基調！ロゴ、会社の椅子などどこにでも赤色で溢れかえていました。休憩室の掘りごたつスペースからはランドマークタワーが見え景色がとても綺麗だったそうです🌟



Y.Kさん

当時“会員数8万人”の目標が大きく壁に貼ってあって、毎日それを見ながら仕事していました。細かい会員数は覚えていませんが、“8万人”って数字も当時の流れからすれば全然現実的だったんです。



Y.Sさん

まねきねこインターネットを迎え入れた際、データの抽出が難しく、最終的にはサーバーごと名古屋から持ち帰ることに。ラックから慎重に取り外して運搬したのですが、わずかな衝撃でも影響が出かねない状況で、終始緊張しっぱなしでした。(笑)



J.Yさん

イージェーワークスは、インターネットが広がり始めたものの、まだ発展途上の段階だった2000年に創業。「会社が何を目指して作られたのか」「どんな想いが込められているのか」を共有し、「お客様のために進化し続けるための原動力」にしていくためのインタビューとして、野島会長にお話を伺いました。

株式会社ピーシーデポコーポレーション
代表取締役社長執行役員
株式会社イージェーワークス
代表取締役会長

野島 隆久

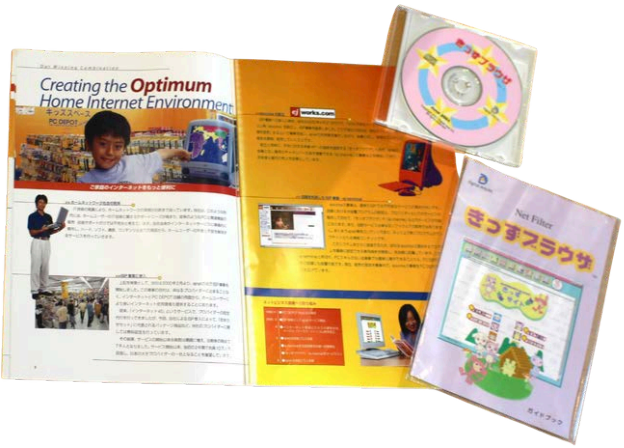
野島 隆久 PROFILE

1959年神奈川県相模原市生まれ。
1982年野島電機商会(現ノジマ)入社。
1994年に独立し、ピーシーマーチャインズ(現ピーシーデポコーポレーション)を設立。
2000年 イージェーワークス・ドットコム(株)を設立
パソコンが一般家庭に、当たり前前の存在になる時代を見越して、PC専門店開始。当時、小売業最速の店頭公開(旧ジャスダック市場)を果たす。時代の変化に合わせご家庭のデジタルを先読みした結果、現在は「すべてのお宅にデジタル担当を」Missionに全国に137拠点を展開中。(2024年12月23日現在)

イージェーワークスは2000年4月、PCデポの店頭で入会を受け付けるISP「ejnet」としてダイヤルアップ接続サービスを開始したのが始まり。「インターネットが欲しい」と言ってPCデポに来店される方が多かった時代。そこでejnetは、PCを買って帰ればすぐにインターネットが使えるサービスを提供しました。ejnetは店頭でアカウントを発行し、セットアップまで完了するという点がお客様にとっては大変便利なサービスでした。

思考の出発点は必ずお客様から

社員 創業への想いについて、改めてお聞かせいただけますでしょうか？
会長 創業当時はちょうどWindows98の時代で、PCデポにはたくさんのお客さんが来ていましたね。当時はまだ「計算ができるコンピューター」が主な用途でしたが、私の中ではすでに“インターネットを使うコンピューターになる”ということが前提として分かっていたんです。しかし、当時インターネットを使おうとすると、申し込み書を取り寄せてから設定が完了するまで約1か月もかかっていたというのは、「信じられないくらい煩雑だった」と言えます。当時のPCデポには多くのお客さんが来ていましたが、彼らがインターネットを使おうとした際に直面していたこの煩雑さこそが、私たちが解決すべき「お客様の明らかな困りごと」だったのです。
社員 それは確かに大変ですね。その課題に対して、どのような解決策を考えられたのですか？
会長 私はまず、設定ツールがあれば、インターネット利用のお客さんの課題が解決できるのではないかと考えました。そこで「ej-terminal」という設定ツールを作ったんです。専門知識がない人でも簡単に接続設定ができるようにするための仕組みを考えました。このお客様の「困った」を解決するための仕組みを追求した結果として、プロバイダー事業、すなわちejnetの設立へと繋がっていったのです。
社員 つまり、お客様の不便を解消したいという純粋な思いが、事業の原動力になったということですね。
会長 ええ、理念の根底には「会社はお客様のためにある」という考え方があり、これが後に「インターネット社会に貢献しよう」という大きな目標と結びつきました。



実際のきっずブラウザ
「PCデポアニュアルレポート2000」イージェーワークス掲載ページ

当時のejnet会員様向けコンテンツ

ej-terminal
PCデポなどの店舗に置かれたイージェーワークスの提供するプログラムを設定する専用端末で、PCや周辺機器に詳しくない人でも簡単に設定ができるようにしたもの。この端末を通じて「きっずブラウザ」や「ej-channel」などのサービスも利用可能にしていた。

きっずブラウザ
子ども向けに開発されたインターネット接続環境。安全にウェブを利用できるように、アクセスできるサイトや表示内容を制限し、子どもが安心してインターネットに親しめるように設計。

1999.11	● PC デポ Web本店開店
2000.2	● ISP事業としてejnetサービス開始
4	● インターネット関連ビジネスの運営会社イージェーワークス・ドットコム(株)を設立
5	● ejnet会員数1万人突破 ● ej-terminalを全国提携先店舗へ設置開始 ● 「きっずブラウザ」「ej-channel」をサービスイン
8	● ejnet会員数2万人突破



創業理念が会社の未来をつくる

社員 イージェーワークスの創業理念はどのようなものだったのでしょうか？

会長 イージェーワークスを作った際、私が掲げたのは「インターネット社会に貢献しよう」という想いです。理念というのは、変化するためにあるものです。日本だって憲法を大事にする国ですが、皆さんは義務教育でそれを深く学ぶ機会が少ない。しかし、教育の目的は、国民として共有すべきもの、つまり“教養”を身につけることです。会社の理念も、常に社員間で共有し再確認していくべきなんですよ。

社員 その理想に、今のイージェーワークスは近づいていると感じますか？

会長 近づいているというよりは、理想を共有し始めて、未来の絵を描いている人間は多くなりました。しかし、近づいているかどうかはそんなに簡単な話ではありません。会社としては、まだまだ人的資本が薄いと感じています。私が想像していた未来を見つめるということが、昨年の秋くらいからようやく少し見え始め、若者たちが未来を描こうとしています。問題は、それを築けるかどうか。これが、これからの若者に求められているんです。だから私は、社員たちに強制的に未来を見させてきました（笑）。理念が自然に広がるのを待つのではなく、積極的に未来を描く姿勢が重要だと私は思うんですよ。

お客様の苦勞に寄り添う

社員 ここまでの歩みには、きっと様々な苦勞があったかと思います。会長ご自身が最も苦勞された場面と、その乗り越え方について教えていただけますか？

会長 大変なこともありますが、本当の意味での苦勞は、イージェーワークスでは私自身はしていないと思っています。むしろ社員や幹部には現場での直接的な苦勞が多かったでしょうし、正確には社員が苦勞してきたんです。私と社員の間には、苦勞に対する温度差があるということです（笑）。私としては、お客さんが苦勞しないものは、苦勞しないという考えです。私にとっての苦勞の定義は、お客様が解消できずにいる不便さにあります。つまり、社員の苦勞よりもお客様の苦勞を大切にします。イージェーワークスはもっとお客様の役に立てるはずだと考えています。その苦勞が報われるかどうかは、最終的にお客様の状況が改善されたかどうかで決まりますから。



持続性と世の中の必要性を見極める

社員 創業からISP事業を軸に様々なサービスを展開されてきましたが、その広がりの中で大切にされていた発想や視点とは何でしょうか？

会長 やはり、原点がすべてだと思います。かつてプロバイダーを「JOIN」しようとなった際、私が社長として指示を出したことが大きなポイントでした。当時、PCデポのお客様にイージェーワークスを紹介しないという決断を下したのですが、その結果、イージェーワークスは生き残ることができたんです。

社員 PCデポのお客様を紹介しないとは意外な決断ですね。

会長 そうです。実は、イージェーワークスが提供する回線技術に限界が見え始めていたんです。回線技術に限界がある中で無理にPCデポのお客様に紹介を進め、お客様の利便性を損なうことは、お客様のためという理念に反すると判断したのです。つまり、規模拡大よりもお客様を優先したということです。そこで、「これからもPC関連のサービスを紹介していくから、それなら「JOIN」してやっていこう」という話になりました。ただし、「JOIN」というのは単にサービスを増やすことではありません。“持続性”と“世の中の必要性”を見極めた上で事業を決定することが大切なんです。また、「JOIN」後の統合プロセスでも、お客様の利便性を絶対に損なわないことを最も重視しました。お客様の声に応え、「JOIN」してもメールアドレスが変わらないようにするなど、「変えたくない」というお客様の声を反映しました。そのために構築したのが、MBOS（Multi Brand Operation System）です。

社員 お客様の声を反映すればするほど、管理コストやシステム構築の複雑さが増すのではないですか？

会長 その通りです。だから、私自身がシステム構造書を自分の手で書きました。その内容は、設定ツールの中身として今も生きています。システムが分からなくても、デザインは今でも私自身ができます。なぜなら、根底にある考え方は「お客さんにとって簡単なものにする」ということだからです。



イージェーワークスという名前に込められた想いとは？

イージェーワークスという社名には、一見、シンプルな響きの裏に、遊び心と多層的な意味が込められています。

創業当時、社名の発端は「横浜いいじゃん」という、くだらないノリから始まりました。また、「イーコマース」の「E」と、「エンジョイ」のような意味合いに近く、語感の良さから選ばれた「J」が組み合わせられました。しかし、「エンジョイネット」のような直接的な表現は避け、より洗練された響きが求められたのです。

そこで採用されたのが「ワークス」という言葉です。これは単なる「仕事」という意味だけでなく、「作品」という芸術的なニュアンスも持ち合わせます。さらに、日本語で使われる「パーティー」が本来「同志を持つ仲間」を指すように、「ワークス」もまた、共通の目的を持つ仲間たちの創造活動を連想させることから、これは良いと採用に至ったとされます。

創業当時の社名は「イージェーワークス・ドットコム」であり、当時の「.com」ドメインの流行も背景にありました。このように、イージェーワークスという名前は、一つの明確な由来を持つのではなく、「いいじゃん」という気軽な発想から始まり、自然に「エンジョイ」のニュアンスが加わり、プロモーションや字体の格好良さといった要素が重なり合って決定された、まさに複層的な意味合いを持つ社名なのです。

人と地域がつないだ、私たちの25年

誰もが手探りでインターネットを使い始めた時代から今日まで、私たちは常にお客様の課題に寄り添い、解決の形をデザインしてきました。



はじまりの拠点から
横浜、みなとみらいへ

Keystation
イージェーワークス

ー20のISPブランドー



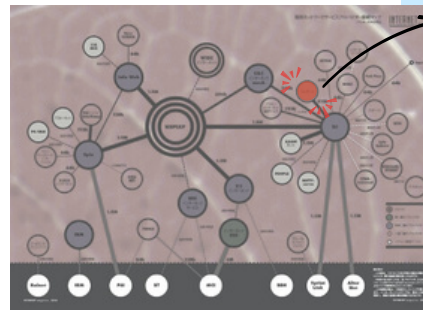
リムネット

1994年に開始、日本では最も歴史の長いISPのひとつ。日本中でわずか数十社しかなかったISPの中に、リムネットの名が記されています。日本におけるインターネットの黎明期、そのつながりの礎を築いたブランドのひとつでした。プログラミングやホームサーバ等のパワーユーザ向けサービスも展開。幅広いサービスラインアップが好評であった「インターネットマガジン」創刊号に広告を出稿し、リムネットのサービスが広く周知されました。成長を重ねたリムネットは、2004年3月、イージェーワークスにJOIN。



「インターネットマガジン」創刊号
(1994年10月号)

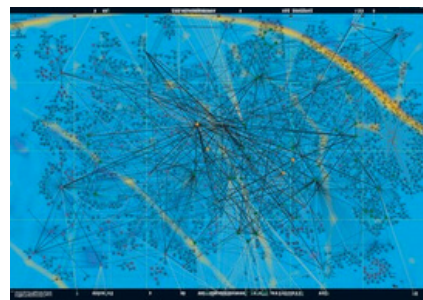
1995/6



リムネット

2001/10

6年後



地域に寄り添う、通信のかたち

2006年入社 Y・Sさん

当時、関西ブロードバンドは地元のワントップ企業として長年親しまれており、地域の方々とのつながりがとても深い会社でした。
ある日、お客様のおばあちゃんの家でテレビを直していたところ、「ごはんも食べていって」と声をかけていただき、すっかり長居してしまったこともあり。地域の温かさを実感した印象的な出来事です。また、ユーブロードをグループに迎え入れた際には、広島や四国、土佐清水など現地まで足を運び、光回線が届かない地域にもインターネットを届けようと、何度も説明会を行いました。
「地域の方々に寄り添う」そんな前身企業の想いを受け継ぎ、私たちはその姿勢を大切に現在も事業を続けています。

“お客様と共に成長する”を体現した大手百貨店グループとの取り組み

イージェーワークスは創業以来、数多くの企業と共に成長してきましたが、その中でも大手百貨店グループとのお付き合いは特別なものの一つです。2000年代初頭から始まり、現在に至るまで約20年にわたり継続してグループ全体で様々な案件を担当させていただいています。
今回のインタビューでは、長らく当案件を担当してきた先輩社員お二人に、当時のエピソードや仕事に対する思いを伺いました。

新入社員 まず初めに、当グループとお仕事を始めたきっかけって、どんな経緯だったんでしょうか？

社員A 実は「親会社が小売業だから、小売の気持ちを理解できる会社だと感じてもらえた」と言われたことがあって、それが選定理由のひとつになったと聞いています。

社員B そうそう。コンペの時には、うちだけロゴを少しアレンジして提案したこともあったんだ。大胆ではあったけど、そういう発想や小売業ならではの感覚を理解していると受け止めてもらえたのかもしれないね。

社員A 実際に「同じ目線で取り組める会社だ」と言っていただけで、それが信頼の土台になっていったんだと思う。

新入社員 なるほど…当時のイージェーワークスには、どんな強みがあったんですか？

社員B 当時はフラッシュの技術が強みだったね。ウェブに動きを加えられるのは大きな武器だった。

社員A その象徴的な取り組みがバーチャル花火大会だね。サイトの中で花火が上がる仕掛けを作ったんだけど、今でも印象に残っているよ。

社員B 毎月の運用費の中から「何か新しいことをやろう」という流れがあって、その一つとして花火が生まれたんだ。当時の制作者が夜遅くまで作業して完成させてくれたんだよ。

社員A 深夜番組でも紹介されたんだよね。2010年代に入ってから「あの花火を超える企画を」と言われるくらい、社内でも特別な存在だったよ。

社員B もちろん大変なことも多くて、バグ対応で徹夜になることもあった。大型セールの納品直前は朝まで対応して、終わってからみんなで食事に行ったなんてこともあったね。

社員A 当グループの案件では常駐ディレクターを置いていたから、毎日顔を合わせてやり取りしていたんだ。食事や雑談も含めて距離が近くて、それが信頼につながっていった。

社員B FAXで大量の修正依頼が届いたり、電話で毎日のようにやり取りしたりもしていたよ。今では考えられないけど、それくらい密に動いていたんだ。

社員A その中で担当者の異動がきっかけになって、ハウスカードのサイト制作など新しい案件にも広がっていったんだ。

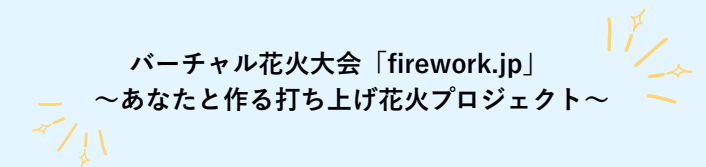
社員B そう。異動先でも声をかけてもらえるのは、それまでの関係づくりが評価されていたからだと思う。

新入社員 なるほど…人とのつながりと技術力、両方が今のイージェーワークスを形作っているんですね。

社員A そういうことだね。当時は大変だったけど、クライアントと同じ目線で考える姿勢と、技術で応える力が、今につながる基盤になったんだよ。



バーチャル花火大会「firework.jp」 ～あなたと作る打ち上げ花火プロジェクト～



共同で展開した、ユーザー参加型エンターテインメントコンテンツ。利用者は自分だけのオリジナル打ち上げ花火をオンライン上で作成でき、完成した花火がバーチャル空間に打ち上がる体験を楽しめました。当時はまだ珍しかったFlash技術を活用。インタラクティブ性の高さと、ユーザー自身が「花火を作れる」という新規性が話題を呼びました。



これからの
デジタル社会

人としての価値とは
一人が、制度も法律もAIも、すべてを包含する社会へー

社員 デジタルの進化が目覚ましいこの時代に人としての価値をどのようにお考えでしょうか？

会長 人としての価値とは、動くこと、それと話をしたり、見たることです。役割の話として包含関係というものが、その最上位に人と人との関係があると考えています。その下にAIのようなものがあり、さらにその下にクライアント様の事業やうちの会社の売上があるんです。社会全体で見ても、人との包含上位関係があり、その下にインターネット、プロバイダー、会社、PC、iPhone、病院、市役所、全てが存在します。これら全ては、人間が快適に生き、動くこと、話をしたり、見たること といった人としての価値を支えるために存在しているに過ぎません。

社員 Society 5.0 (*)でも人間中心と謳われていますね。

会長 ええ。しかし、Society 5.0の議論の出発点は技術から始まっているように見える。私から見たら、その包含関係の捉え方が違っていました。私の考え方は、人間が、制度も法律もAIも、すべてを包含しているというものです。つまり、人間が包含される側ではなく、人間が包含する側であるべきなんです。

社員 人としての価値が技術を包含するというお考えは、単に利便性を追求するだけでなくイジェクワークスの理念の進化にも繋がっていますね。

会長 はい。デジタル機器をただ使えるレベルで終わらせてはいけません。それを使って何か新しい価値を生み出す私たちは、単なるサポートではなく、お客様自身が自分で学ぶ機会を提供するべきなんです。この理想を実現するためには、社員は常に、理念に基づいてお客様のために進化し続けなければいけません。

* 2016年に日本政府（内閣府）が提唱した未来社会のコンセプト。



-スマートライフという新しい学びのカタチ-

「スマートライフ」という概念を世界で最初に提唱したのは、私かもしれません。といっても、それは家電量販店のサービス力や携帯ショップのサポートとは、まったく異なる考え方です。「スマートライフ」は、便利さを提供することではなく、人が自ら学び、より豊かに生きる力を育てることを目的としています。以前、東京大学の学生100人にレポートを書いてもらったことがありました。彼らは、何の説明もなく「スマートライフ」というテーマから、自分たちなりの解釈を導き出してくれたんです。比較対象がなくても、自然とその本質を理解してくれた。それを見たとき、この概念は、世の中にまだ存在しない新しい常識なんだと確信しました。私たちPCデポでは、この「スマートライフ」を実現するために、学校をつくりました。

これからは、サポートしてもらおう場所ではなく、自ら学び、成長する場所としてのPCデポを目指しています。会員の方々がPCデポにサポートを受けに行くのではなく、「PCデポの学校に通い始めたんだ」と言えるようになる。そんな未来を、私たちは描いています。ありがとうだけで終わらない関係から、一緒に学び、進化し続ける関係へ。これが、私たちが考える「スマートライフ」のかたちです。

MESSAGE

輝いてほしいのは、私たちの先にいる人

「キラキラ輝くej社員」を目指してほしいわけじゃないんです。目指してほしいのは、「キラキラ輝くejのクライアント」。私たちが輝くことで、クライアントがもっと輝く。そこに本当の価値があると思っています。そして、もうひとつ大事なことは、会社に帰属するのではなく、理念に帰属すること。つまり、主体が誰なのかを明確にしておかないと、会社は変化に弱くなってしまいます。私は社員の進化を支える会社、社員の進化についていける会社でありたい。それが、私の理想の会社です。

今は、ただ大きければいいという時代ではありません。「一人ひとりが、10年後、20年後の日本がどうなっているかを想像しながら動けるかどうか」そこが問われる時代です。まさに「Change or Die」。変化し続けられるかどうか、生き残れるかどうかを決める時代です。だからこそ、私たちは常に進化し続けなければならない。お客様のために、そしてお客様の未来のために。

正直、私にもすべてが見えているわけじゃありません。でも、ひとつだけ確かなことがある。理念を失ったら、その会社は終わりです。だからこそ、私を見失わないでほしい。私が持っている理念を、見失わないでほしい。それがなくなれば、会社の軸なんてあっという間に崩れてしまう。「私を見失うな。会長を見失うな。」それは、「理念を見失うな。信念を持って進め。」ということです。



会社概要

会社名 株式会社イージェーワークス

所在地 〒220-0011 神奈川県横浜市西区高島一丁目2番5号 横濱ゲートタワー18階
TEL. 045-522-2879
FAX. 045-522-2869

設立 2000年4月21日

資本金 211,068,000円

事業内容

インターネット回線サービス / Webインテグレーションサービス /
インフラ・セキュリティ・クラウドサービス / AIエージェントサービス /
ビジネスツール・プロモーションサービス

登録・認定

適格請求書発行事業者

【登録番号：T9020001036834】

届出電気通信事業者

【届出番号：A-11-3608】

プライバシーマーク

【認定番号：10822191】

プライバシーマーク

イージェーワークスは横浜市SDGs認証制度Y-SDGsの認証事業者です。



あとかき

～イージェーワークスがどんな想いでつくれ、どんな未来を描いてきたのか～

会長へのインタビューに加え、社員の皆さんのお話や会社の歴史を振り返る中で、イージェーワークスの原点には「お客様のために進化し続ける」という強い想いがあることを知ることができました。取材や撮影にご協力くださった皆さま、ありがとうございました。皆さまの言葉がページを彩り、この冊子を通して会社の魅力をより深く伝えることができました。

この冊子が、社員の皆さまにとってイージェーワークスのこれまでの歩みとこれからの未来について考え、自分自身の仕事への想いについて見つめ直すきっかけとなれば嬉しく思います。



2025年入社 内山雅央
椎葉穂香
中村京ノ介

